



第 694 号
発行人●豊丘村公民館
館長 原 国人
編集人●長野県下伊那郡
豊丘村公民館報
編集委員会
0265-35-9066
印刷所●龍共印刷株式会社

私たちの村
(12月1日現在 ※外国人を含む)
男 3,355人
女 3,390人
総人口 6,745人
世帯数 2,152戸

レース後の豚汁に魅せられて 繻を繋ぐ



総合優勝「下伊那農業高校駅伝同好会」

豊丘村駅伝大会 の感想

下伊那農業高校駅伝同好会
下市場 菅沼昂生

素晴らしい大会で、メンバー全員とても楽しく走れました。私たちのチームは、元豊中駅伝部中心で集められました。今は全員下農生で、中にはバスケットボールをやっている人もいます。

第三十一回豊丘村駅伝大会が十一月二十三日(金祝)に行われました。快晴にも恵まれ、全三十五チームが五区間十三kmを駆け抜けました。また、新設したパフォーマンスランにも二チームが参加し大いに大会を盛り上げました。

役場の駐車場がさみしく無いくらい人が集まった駅伝大会ですが、来年はぜひ出てみてほしいです。理由は、豚汁が無料で食べられます。精一杯走った後に食べる豚汁は会場に来た方みんなおいしそうに食べていました。こういう大会は、普段あまり会わなかったりする人と集まれるきっかけになると思います。走る距離は二、三千円で参加料も安いです。知り合いに声をかけて、楽しく走って、豚汁食べて笑って帰られるイベントです。

今回参加してみてそんな風に感じました。チーム下農駅伝同好会は来年も出場しようと考えています。来年は、もっと盛り上がった大会になることを期待しています。みんなで楽しく体を動かしましょう！

繻を繋ぐ 想いを繋ぐ

豊丘中学駅伝部
中平 山本結萌

私たち「五十八分三十二秒」は、豊丘中駅伝部の女子で結成したチームです。昨年も参加させて頂きましたが、バレー部に負け、三位になってしまいました。多少メンバーは変わりましたが、今年こそ優勝したいと思っていました。このメンバーで優勝したいと思う反面、いくら駅伝部でも、長距離専門は私を含めても二人しかいないので少し不安でした。



女子優勝「58分32秒」

私は二区を走りました。一区からはバレー部に続く、三番目にたすきを受け取りました。しかし、バレー部とはかなりの差があり、抜かせるか微妙でした。三区に任せようかな?なんていう弱い自分も出かけたことが、仲間のためにできることは全力で走ることだけだと思い直し、前を追いました。中継所までにバレー部二人を抜き、無事にたすきを繋げました。その後も、私たちのたすきは一位を走り続け、ゴールテープを切りました。チームの中で、区間賞は二人だけでしたがそれでも優勝できるのが駅伝のいいところです。私はチームを支え合って走れる駅伝が大好きです。来年も豊丘村の皆さんと走れることを楽しみにしています。

石造文化財めぐり

石造物巡りに参加して
小園 大澤俊郎

「ハテ?今回はどんな石造物かな?」十八人の期待と楽しみを乗せたマイクロバスは、まだ霜の寒さの残る午前九時ゆめあるてを出発した。最初に着いた所は河野・市ノ沢十王堂、市ノ沢会所脇であった。

史学に極めて造詣の深い酒井幸則氏(林里)の案内と解説で先ず会所脇の道沿いにある道祖神を見学。道祖神とは「塞の神」とも言われ、邪悪の侵入を防ぐことだ。

いなり、行路の安全を守る神で村境などに置かれていたが、以後良縁、夫婦円満の神となり男女二人が描かれている物もある。市ノ沢の十王は河野・泉龍院に移されているので今は会所にはないとの事。会所脇には古い「庚申塔」(二かえさる)日待信仰の代表的な物が置かれている。もともとは中国の道教の教えによる為、庚申の夜は眠らずに勤行に励み、本尊に健康長寿を祈願する信仰が行われるようになったとの事です。

次は河野・中芝の「陳の坂観音」。中には十王の石仏、木彫りの三十三観音(大乗仏教の經典「法華経」の中の観音、かいこの神様蚕玉様、閻魔大王等価値ある多くの仏像が安置されていた。バスは河野・中平へ進行、中平研修センター脇にある道祖神を拝観した後、神稲北村へ通ずる中平地籍の道路脇にある数多くの石仏を拝観した。

「秋葉大権現」や「お地蔵さん」「地蔵菩薩」・子安・延命・勝軍・六道等)の他に「津神稲・小園へと降りてきた。小園・小野神社にて「陰陽二柱ノ神」を拝観。ご神体は男・女の象徴に似た自然石である。陽石は江戸時代小野神社の裏山で発見、陰石は伴野松尾家から譲り受け、明治三六年来に小野神社境内に合祀清めの祭りをしたと言われている。最後は神稲・伴野・慈恩院・山門前の珍しい合掌している道祖神を拝観して正午にゆめあるてへ帰着した。

冬になって天竜川の水かさも減り、お隣の松川町では新宮ヶ瀬橋の橋桁の工事が始まった。いよいよ次は河野の架橋の番だ。豊丘、喬木の未来にとって大きな役割を果たす橋になる。多くの人がこの橋を通って豊丘に来て豊丘に触れ、楽しんでいてもらいたい。リニア開通に向けても、豊丘村の利便性が格段に向上するため、住宅地、企業用地の需要は高まり一貫道路沿いの大きな発展は間違いないだろう。しかし少し考えてみよう。これが本当に手放して喜べるのか?一貫道路沿いには上質なコメの採れる田園が有る。豊丘村の残さなければいけない田園風景だ。田舎の風景といえ、テレビに出るのはひなびた山村ばかりだが、田を起し、水を張り、田植えの風景、夏の風が緑の田をゆく風景、秋の一面黄金に輝く風景、一面真っ白になる雪景色、これも私の大好きな素晴らしい田舎の風景です。農業の担い手が減っていく現在、『そんなことは分かっているも百姓が続けられないんだよ』と言われるのは重々分かっております。お前がやれと言われても、残念ながら出来ないのです。しかし、これも未来に残せる豊丘の大きな財産であることに間違いはない。だからもう一度みんなで考えましょう。

(吉田 裕)



酒井幸則さん

段丘

ニコちゃんズの思い（一）

中芝 春日恵理子

私は七年前、友人に誘われて、南小学校と北小学校で「読み聞かせ」のボランティアを始めた。絵本大好き、子ども大好き仲間六人が集まった。メンバーの年齢は六十代前半から七十代後半のおばあちゃん世代である。

グループの名前を「ニコちゃんズ」とした。ニコニコ顔のワッペンを着けて、ドキドキしながら各教室に向く。



性、思いが色濃く出て楽しい。私はこれを書くにあたり、今一度、読み聞かせに寄せるそれぞれの思いを聞いてみた。そこに見えてきたものは、絵本に対する深い愛着と、子どもたちに寄せる温かいまなざしであった。Aさんは語る。

「ハリーはくろいぶちのあるしろいぬです」から始まる絵本「どろんこハリー」が特に好きだと。冒険あり、笑いあり、最後の場面ではハリーが「じぶんのうちってなんていいんだろ」と述懐して安らかな眠りにつく。ハリーを囲んでくりひろげられる家族の絆が温かい。一年生から六年生まで、全学年に与えてみたが、

年齢を問わず、ハリーは人気の的だ。子どもたちはハリーと自分の姿を重ねるのだから。五十年の長きにわたって読み継がれた名作は、常に新鮮だ。

昔話の再話「うまかやまんば」を読み聞かせたBさんはこう話してくれた。夕暮れ、峠で山姥に出会った馬方はつみ荷の魚も、馬も食べられてしまう。命からがら逃げ込んだのは山姥の家であった。そこから馬方の復讐が始まる。

昔話には、すべてのものに神が宿るという万物に対する民衆の素朴な畏敬の念が根づいている。文章はリズムカルで、場面によって、子どもたちのつばやきも聞こえて、ハラハラドキドキするこのお話を低学年はとても喜ぶ。

Cさんは考えたという。中には絵本に興味を示さない子もいるだろう。ならば、自然や図鑑を取り上げてみよう。自然を扱ったものや、図鑑を与えてみると、子どもによつては、さらによく見ようと、並んだ列の間から首を伸ばして熱心に見入ったという。Cさんの家は、児童の通学路に面している。ある日、二人の男児が、学校帰りに立ち寄り、「また、この間のような絵本を読んでも下さい」と告げたと聞く。何ともほほえましいエピソードだ。

次号へ続く
（市立中央図書館文章講座「くらしの中から」三十六集から引用）

パパとママの子育てセミナーに参加して

山田 片桐 大寿

「第十六回 さんかくセミナー パパとママの子育てセミナー」が十一月四日（日）にゆめあるで開催されました。出産前後、子育て中の夫婦の方々二十名程と一緒に、私たち夫婦も参加をさせていただきました。

セミナーでは、子育てにあたり、パパはどうしたらママの気持ちに寄り添えるのかをテーマに、講師の渡邊大地さんからの課題について、パパグループ・ママグループごとに話し合いを行い、発表をして意見を交換しました。

印象的だったことは、気持ちが高ぶるために必要な会話の量が、女性は男性の三倍ということです。ママは、毎日続く子育ての中で、話したいこと・聞いて



最後に、要望とお礼です。パパ側の気持ちにももう少しだけ触れて欲しいというのが要望です。何はともあれ、今回のセミナーは私たち夫婦にとつて大変有意義なものでした。また、子供を預かってくれたボランティアさん達にも大変お世話になりました。どうもありがとうございました。

昭和三年に、現在の松川町上片桐で、六人きょうだいの末っ子として生まれ、両親からも兄弟からも可愛がられた。長女の甥とは三歳離れているだけだった。次男は満州に渡り、現地で授かった子供三人の子守りのために現地へ来て欲しいとの依頼があったが、親が断り実家に留まったとの逸話も話された。運命の大きな転機であった。

小学校を卒業、高等科三年を経て直ぐに実家近くにあった製材工場に勤め、事務員として六年間働いた。家計の足しとする為、給料のほとんどを家に入れた。その時に習得した算盤は今でも時々触ることがあり、ボケ防止に役立っている。

二十一歳の時、親同士が従兄弟に当たり、小さい頃から顔見知り七歳上の信さんと結婚した。義父は結婚時には亡くなっており義母も病弱で、三年間の看病の末、五年後に亡くなった。治療の為、お金に苦労することが多かった。否応なしに四人の小姑の世話をする事となり、苦労の連続であったが、それを苦労とは思わないほど気が張り詰めていた。自分より年上の子、同年の子、最年少は高

校生であり、四人が結婚するまで世話は続いた。信さんは米作、果樹、酪農等農業一筋であったが、長男がカーネーション栽培を始めると、果樹園を処分し最大限の支援を行った。里るさんは信さんを援助すべく、時には三人の子供の内、末っ子を「たらい」に入れて子守りしながら手伝うこともあるなど働き詰めであった。そんな信さんが七十五歳で突然亡くなり大きなショックを受けた里る

体が暖かくなり、日頃使っていない足の先から手の先までほぐれてくるのを感じることができず。もちろん、休憩時には口も顔もほぐれて楽しい時間を過ごしています。

現在は、練功、二十四式、太極扇に加え、三十二式太極剣、陳式太極拳を習っています。

豊丘の老若男女の皆様も夜の一時、御

さんは、心臓を病み救急車で病院に搬送されたが、奇跡的に回復し無事帰宅することが出来た。現在は、朝起きると直ぐに新聞を読み、テレビの録画を設定、近くのハウスに移動して花栽培の手伝い及びお茶飲みなど毎日規則正しい生活を送っている。また毎日体重及び血圧を測定し健康には細心の注意を払っており、これらが健康維持の要因であると思っている。お陰で最近風邪を引いたことがない。

本人は「割と小さなことを気にする方だ」とのことだが、話の節々で笑いがこぼれており、大らかな方なのではと思えた。若い頃から旅行が好きで、夫婦で国内はもとより香港、中国、ハワイ、タイ等海外を訪れたのは楽しい思い出だ。

現在長男夫婦との三人家族だが、近くに住む小学一

全ての苦勞を忘れる曾孫との一時

シリーズ「元氣な高齢者」⑤1

屋神里るさん 九十歳

地蔵道在住



務員として六年間働いた。家計の足しとする為、給料のほとんどを家に入れた。その時に習得した算盤は今でも時々触ることがあり、ボケ防止に役立っている。

二十一歳の時、親同士が従兄弟に当たり、小さい頃から顔見知り七歳上の信さんと結婚した。義父は結婚時には亡くなっており義母も病弱で、三年間の看病の末、五年後に亡くなった。治療の為、お金に苦労することが多かった。否応なしに四人の小姑の世話をする事となり、苦労の連続であったが、それを苦労とは思わないほど気が張り詰めていた。自分より年上の子、同年の子、最年少は高

校生であり、四人が結婚するまで世話は続いた。信さんは米作、果樹、酪農等農業一筋であったが、長男がカーネーション栽培を始めると、果樹園を処分し最大限の支援を行った。里るさんは信さんを援助すべく、時には三人の子供の内、末っ子を「たらい」に入れて子守りしながら手伝うこともあるなど働き詰めであった。そんな信さんが七十五歳で突然亡くなり大きなショックを受けた里る

体が暖かくなり、日頃使っていない足の先から手の先までほぐれてくるのを感じることができず。もちろん、休憩時には口も顔もほぐれて楽しい時間を過ごしています。

現在は、練功、二十四式、太極扇に加え、三十二式太極剣、陳式太極拳を習っています。

豊丘の老若男女の皆様も夜の一時、御

公民館登録グループ活動紹介 第15回 こぶし会 大柏 片桐則子

私たちこぶし会は、ゆめあるで第一、第二、第四月曜日に飯田市より今牧俊明先生に御指導をいただき、太極拳を習っています。この会は平成二年に設立されましたが、現在七名で活動しています。

太極拳は中国の古い歴史のなかから生まれた武術であり、年齢や体力が異なる人々が、同じ場所同じ動作を一緒に練習することができます。動作は膝を曲げ、腰を沈めて、重心を一定の高さに保ってゆつくりと呼吸に合わせていきます。

特に体力や運動に自信があるわけはありませんが準備運動を行っただけでも

体が暖かくなり、日頃使っていない足の先から手の先までほぐれてくるのを感じることができず。もちろん、休憩時には口も顔もほぐれて楽しい時間を過ごしています。

現在は、練功、二十四式、太極扇に加え、三十二式太極剣、陳式太極拳を習っています。

豊丘の老若男女の皆様も夜の一時、御



年生と、もうすぐ三歳になる曾孫と過ごす時間が何より至極の時間である。

テレビは歌番組と時代劇が好きで、自分で録画設定したもの何回も見直すほどである。更に相撲が始まればテレビの前に釘付けとなり、国技館に六回も見物に行ったことがある。ゲートボール、マレットゴルフを十数年前まで楽しんでいて、仲間が減ってきたことも最近行っていない。はつらつ、ミニテニ、どんつく等に定期的に通っていることも気持ち若く、明るく保つ秘訣であろう。新聞を読み、ピンと背中を伸ばして歩く姿はとても九十歳には見えない。

ふつと口にされた「今は本当に幸せ」との言葉には人生の達成感があった。

文責 桐崎 長一

こちら資料館 191

生まれ変わった 考古資料室

写真は新しくなった考古資料室の様子です。十月号でお知らせした時は土器や

石器が何もない状態でしたが、展示物や掲示物が一新され、生まれ変わったように立派な資料室となりました。

「明るく綺麗になったなあ。」「展示物に圧倒されそう。」「分かり易くなった。」等々。先月の特別展に来館された多くの方々の感想です。

「豊丘の地が古代から文字通り豊かな丘であったことを示す展示を心がけた。」



大会が開催されました。一部にあたる豊リーグ所属の私達「オール南」ですが、かつてV七を達成した黄金期も過去の栄光になりつつあり、ここ何年かは、選手の高齢化、主力選手の退団

「税金の大切さ」豊丘中学校三年 久保田 透輝

「税」とは、僕たちのく身近に使われていますが、そのことを意識しながら生活している人はほとんどいないでしょう。あたり前の

税についての作文 入賞作品

長野県納税貯蓄組合連合会長賞受賞

ようにある道路、学校、公園、図書館など色々な所に使われています。また、病院代、ゴミの収集、警察や消防の活動費など僕たちはたくさんのお金を支えています。

のようですが、僕は通学カバンを受け取った時、村の温かさを感じ、とても嬉しかったです。

段あまり本を読みませんが、「本をいただくことで本にふれあう機会ができたことが豊かになる気がします。」

例に挙げると、仮設住宅や瓦礫撤去、公共施設の建て直しなどに使われたそうです。インターネットでは、

民一人一人から「税金として多くの支援があったという事です。」

中学生から始まって、若い世代の皆さんが豊丘の未来を熱く語る

リニアの時代の豊丘の未来づくりシンポジウム

●日時：平成31年2月2日(土) 13:30~16:30
●場所：交流学習センターゆめあると

主催：豊丘村公民館・リニア活用戦略研究会（総務課プロジェクト）・若者交流実行委員会

村の五大ニュース

募集

別紙の応募用紙をご利用ください

公民館報 編集委員 募集中

昔の真与実の淵は周囲がたいへん険しい淵であるので、殺生に行くにも困難であった。その反面、雑魚は人々にあまり獲られないので安住のところが、住んでいたのであろう。

この淵についての昔話は、徳川中期頃であったと言われていた。その時代の生活を想像するに、原始時代に近いような生活を人々は過ごしていた。今日では農業や洗剤等の使用にて川には雑魚一尾たりとも住むことができない。昔は違い、水も清く敵地で雑魚の種類も多くいたとのこと。

ある年の夏、部落の勇敢な一人がこの難所の淵にたどりつき、漁をした。前に書いたような条件なので大きな雑魚が獲れる獲れる、入れ物に入りきらないくらい獲れた。入れ物がいっぱい、また帰りのことも案じられたので、一服煙草を吸い帰ろうとして休んでいた。このとき淵の中に大きなものがあるのが見えたが、その日は時間も遅くなったので帰ることにした。

「豊丘村民話集」より

ああ今日は辛抱した甲斐があったと喜び、帰り支度をした。あたりはもう日暮れであった。

その時、誰一人として人影もないのに人声がある。不思議と思い耳を澄ましていると、アメマスさらば、アメマスさらばと繰り返すのがかすかに聞こえた。人もいないのに薄気味悪く、陰路をまっしぐらに家路についていた。

その人はその夜から熱病に罹り悩まされた。昔のことなのでお医者様も薬もない。行者様に伺いを立てて見てもうらと、それは真与実淵の主を獲ったので、そのあたりだと言われた。とつた魚はアメノウオの「劫を経た」長く生きた「魚だ」とのこと。

このまま放っておいてはさらに不幸が大事になるおそれがある。これは水神に祀れと言われたので、行者にいわれた通り水神に祀り祭祀した。病氣も治り、平穩になったとの伝説がある。

（註 真与実の淵は昭和二〇年代に埋められ、現在は水田になっている）

（豊丘村民話集・第老輯（昭和五十二年）より）

文責 壬生雅穂

～シリーズ～ 豊丘の自然
No.180
ミシシippアカミミガメ
（ヌマガメ科）



「外来種」というだけで問題種に指定されたミシシippアカミミガメ。ミドリガメと呼ばれ、ペットとして売られていたが、最近、輸入、販売、飼育の規制が検討されていると聞いた。その理由は「最近、日本に元々いた在来種（イシガメ、クサガメ）の減少」だという。アメリカザリガニ、ウチダザリガニの二の舞か。

昨年の六月、水辺の学校で、こんな写真（三匹）を撮ったので紹介する。（山田 拓）



ゆめあるて全館を使って
文化祭作品展
11月18日～25日

文化祭作品展が、とよおかまつりの翌週の十一月十八日から二十五日まで、ゆめあるて全館で開催されました。絵画や写真、木目込み人形、俳句や押し花など、多くの素晴らしい作品が来館者を魅了しました。

稿 車社会に
寄 思うこと

伴野原 芦部キヌ子
小学校の頃、お父さんや兄さんが乗っていた自転車をかき取り県道で三角またぎを習い、次は本またぎを習いに友達と南小学校の校庭に行きました。それから自転車に乗れるようになってうれしかった事を覚えています。子供の頃は自転車に乗った人、ハイヤー、運送車がたまに通るくらいでした。学校の行き帰りは、道の真ん中で遊び

ながら学校に行きました。今考えるとほんとうにおだやかでした。伴野原にきてからは行きは良いが帰りは自転車押し上げ大変でした。昭和四十年頃バイクの免許を取りバイクに乗るようになりしました。自動車に乗る人も出てきました。現在は車ばかりの道になり、事故がおきない事を願っています。なんでこんなに忙しくなったのか、いろいろ考えさせられます。



俳句 短歌

澄みわたる色浮き立ちて石路日和
墓詣で素秋の風に吹かるるも
秋天や母の形見の絵筆取る
粧へる伊那の連山朝陽さす
早朝に落葉ふみふみ音もなし
冬霧や谷は日のいろ染めつくす
棕鳥の吸ひ込まれゆく一樹かな
身に沁むや槌仏までする供養
マラー五の心の平穩星月夜
満月に薬草の香の照らさるる
車座に茶碗酒酌む村の秋
風の空垂れ朝顔の種子こぼれ
足湯して誰彼親し吊し柿

磯部セツ子
田中 静
片桐 洋子
森田 恵子
三島 保子
三島 里子
木下 真水
松岡 照子
宮下 公
宮下 純子
林 恵美子
丸山 時子
北原 昭子

なつらぶる記
第20記
伊那谷の絶景地



2008年師走の林里。まだ農協が見える



跡を見ることができ、ここに夕焼けで燃えて染まる天竜川を見ることができた。さらに公園の中には十一月の朝霧が沸き立つころに見頃となるモミジの大樹が、美しく染まり威厳を放つ。朝霧の白いベールの中に浮かび上がる光景はとても見事と言える。

かきつ子は身近な伊那谷の絶景地

2007年1月雪の日



「お詫びと訂正」

「豊菊会」の写真は「静永弘会」でした。確認が不十分だったため、お詫びして訂正いたします。

川柳

〈豊丘村川柳クラブ豊柳会〉

- ▼課題「連」 久保ひろし 選
- 運転の止め時迷う高齢者 林 桃子
人の運この世を去って評価され 山本 義彦
軸吟：不条理がやがて自分の不運決め
- ▼課題「柱」 互 選
- 床柱何時傷付いた撫でてやる 安田 喜子
古民家の大黒柱歴史あり 福沢 勝美
浮き沈み大黒柱じつと耐え 原 美風
▼自由吟 福沢勝美 選
新大臣ボロ次々に暴露され 桃沢 健介
残業が家計を支え円満に 久保ひろし
年波に生きた証を川柳に 市沢 照子
このままの暮らし大事に生きる日 西元 峯子
軸吟：競演のみこしに見せる村の意気

〔短歌会 夢あるて〕
お諏訪さま初に参れば孫は笑む巖かな社殿紅葉に染まる 松下 泰見
柿むく手冷たかろうとほかほかの栗あんおやき友が届けり 福澤貴美恵
手作りの黒文字添えてみそ漬けを出してくれたる日焼けしたうで 大原真由美
手作りのねこ半纏をいただきて友の優しさ背なに伝わる 筒井 恵子
あと幾度逢えるか高女クラス会八十路を越えて杖を頼りに 松尾ヒサコ

〔あしたば短歌会〕
水害で移住したる母の里いとこら集い生家を語る
いとこ会紅葉の湯宿に一泊す優しき母の思い出尽きず 壬生 千春
夫の忌にはろ酔いも良しと一人酌む静かな夜にラジオ聞きつつ 大倉 知江
八十九歳先ずはめでたし熱燗で来しかた思う今日あることを 毛涯百合子
牛飼いを止めたる畜舎のこぼれ餌は春に芽を出し茎伸びている 北澤 秀子
眠りいし闘争心を駆り立てるしずもる朝友よりの電話 福澤 亀人
凍みし朝空一面にうろこ雲「龍の子太郎」の民話の世界 再興が果たせずここに三十年南朝の皇子の無念を思ふ 南朝の親王祀る山深きもみじに染むる宝篋印塔